

はあとふる

Vol. **38**
AUTUMN

Heartful 2011.9

地域の皆さまに、知識(Cool Head)と心(Warm Heart)と技術(Beautiful Hands)でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌



金剛山3000回登頂を達成した森下さんとスタッフ

■特集

～私らしく生きる～
保存療法を行いながら
3000回登頂を達成された
患者さまのインタビュー

■はあとふるグループメンバーの災害支援レポート

災害支援ナースの
経験から得た災害への対策
災害支援ナースの活動報告

平成22年度
島田病院手術実績のご報告

島田病院副院長に
就任して



2011年3月からの行事報告



島田病院、八尾はあとふる病院は
『病院機能評価認定病院』です。

はあとふるグループ | 医療法人(財団) 永 広 会
社会福祉法人 はあとふる

～私らしく生きる～

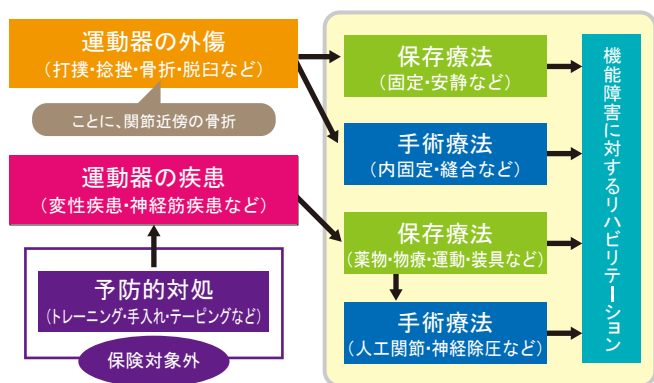
保存療法を行いながら3000回登頂を達成された 患者さまのインタビュー

島田病院の整形外科診療は、神経の協調機能、そして運動器である筋の出力機能、骨・関節の運動性・安定性・無痛性・機能性を正常にすることで、その人がその人らしい人生を回復し、創造していくことを目的にしています。

そのため当院の専門スタッフに求められる基本姿勢は「運動器の障害による各個人の“LIFE”への影響を最小限とする方法を常に模索し、向上させる意欲を持つこと」になります。ここでの“LIFE”とは、生物学的な「生命」であり、社会学的・人類学的「生活」であり、同時に、個人的で文学的な「人生」という重層的な意味を持つと考えています。

また、整形外科疾患の治療を大きく分けると手術療法と手術以外の保存療法になります(図1)。運動療法によって手術が要らない場合もありますが、あらゆる手術以外の方法でも効果がなく、目的の行動ができないと手術を選択することになります。その場合でも手術後のリハビリテーションが大事になります。結局、整形外科診療の質は診断を行う整形外科医の知識や経験、手術の腕、そして機能回復や目標に向けた手術後のリハビリのプログラムとリハビリのスタッフの技術などによって決まることになります。

整形外科診療とリハビリテーション(図1)



手術療法に関する実績は6ページに掲載しています。ここでは、股関節の痛みで、約10年前に初めて島田理事長の診察を受けられ、保存療法を選択された方をご紹介します。痛みを抱えながらも金剛山に登り続けるという“LIFE”を継続し続け、ついには、金剛山 3000 回登頂という目標を達成されました。今回、インタビューをする機会を得、お電話したところ「う～ん。登ってみたいと、分からないよ。一緒に登ろう!」とお誘いがありました。ある日曜日、スタッフ数名と一緒に金剛山に登りながらお話を聞くことができました。



金剛山3000回登頂を達成した森下能子さん

森下さんのインタビュー

金剛山へは、20年以上前から登っています。今では、その回数も 3000 回を超えました。金剛山へ登る理由には、「人とふれあいたい」や「健康のために」など人によって様々ですが、私にとっては、季節によって違う景色が楽しむことができるし、何より、頂上に到達したときの達成感がもたらす、心地よさですね。今では生きがいの一つになっています。

金剛山登山の回数が 1000 回くらいになった時です。右の股関節の痛みがひどくなってきました。色々な治療を試してみましたが、良くなり、やがては、右足全体が痛くなってきて、日常生活もままならなくなってきたころ、友人から島田病院を教えてもらって、島田先生の診察をうけたのです。診察では、変形性股関節症と言われ、ひどくなったときには手術する可能性があると言われました。でも、やっぱり手術となると怖いじゃないですか。できるだけ手術はしたくない気持ちと金剛山登山をあきらめたくない気持ちを島田先生に伝えて、手術は行わず、リハビリテーションの治療を行いながら、金剛山登山を続け

るという方法を選びました。痛みがひどくなってきた時に、金剛山登山をやめていたら、3000 回登るという目標を持ち続けることは難しかったと思います。島田先生が「登山を続けながら治そう」というしてくれた事に感謝しています。

3000 回 という一つの目標は達成しましたが、山の楽しみを多くの人に知ってもらいたいという思いが強くなりました。たくさんの人に金剛山登山の良さを知ってもらいたいですね。これからも、次の目標に向かって、まだまだ登りつづけますよ。

2011年1月 理事長に届いた金剛山登山 3000 回達成のメールをご紹介します。



森下さんからの送信メール



島田先生 様

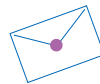
明けましておめでとうございます。

本日1月8日 御蔭さまで金剛登山 3000 回を達成することが出来ました。登山を始めて約20年 がたちました。1000 回ぐらいの時、股関節に異常をきたし、その後痛みを我慢しながら登山を諦めずに今日に至りました。この数年は、全く山に登っていても、痛みは出ません。快調です。今日があるのも先生の御指導のおかげと、感謝申し上げます。

これからも、何回登れるかわかりませんが、頑張っていこうと思います。

1月の診察で、先生とお会いするのを楽しみにしております。今後とも宜しくご指導の程御願い申し上げます。

森下能子



島田理事長から返信メール

森下能子様

本当におめでとうございます。身体の不都合を乗り越えての達成であることを知るだけに、改めて、心からお祝いをお伝えしたいと思います。目標に向かって努力されるひたむきさとあきらめない心に感服しています。

そして、森下さんは私に勇気を与えてくれました。整形外科医として私はいわば普通ではない変わった診療スタイルで仕事をしてきました。同業者から、患者さんの身体を守るといふ医師の役割を放棄していると批判を受けたこともあります。

でも、やり遂げた充実感を満面に浮かべた森下さんの姿は清々しく、また神々しいものに私には映りました。自分のやり方が間違っていないと背中をさすっていただけたような気がします。

おそらく、まだまだ山に向かわれると思います。私も負けずに、同じ診療の方針をこれからも続けたいと思います。

ますます頑張ってください。

3000回登山の偉業の証となる
300枚目の金剛山登山回数表。



年1回継続している診察の際、金剛山登山3000回達成のお祝いに島田理事長から花束を贈呈しました。

災害支援ナースの経験から得た災害への対策

島田病院 医療安全管理室長
感染管理認定看護師 森下幸子

私は、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の被災地へ日本看護協会の災害支援ナースとして行き、被害の大きさと津波の威力を知りました。災害支援ナースは、日本看護協会から指定された避難所へ行き4日間24時間体制で看護師が、巡回する医療チームと連携し被災者の健康管理を行うという大きな役割を担っています。

私は、震災1ヶ月後に宮城県の石巻市にある小学校（避難所）へ3日間派遣となり、支援にあたりました。本来は4日間ですが、感染管理認定看護師の私は、4日目から別の3カ所の避難所へ行き、各避難所の衛生状態について調査を行うことになりました。急遽、2日間の延長を理事長、看護部長から許可を得て、現地でヒアリングやアンケート調査をし、17カ所の避難所の衛生状態をまとめることができました。

それらの経験から、今後私たちにも起こりうる災害について考え衛生上、どのような備えが必要なのか一部ではありますが、ご紹介します。

- 水が使えない場合は、排泄後や食事前にウエットティッシュで手の汚れを落とし、その後アルコールベースの手指消毒剤を乾燥するまで、擦り込みましょう。
- 多数の人が生活する避難所では、インフルエンザなどの感染症拡大を防止するために、人と人または家族単位で1m離れたエリアを確保しましょう。

- 集団で生活するため、咳や風邪気味の人はマスクを装着しましょう。
- 津波やがれきにより、外は土埃が多くそれらを吸い込む事で呼吸器感染症を発症するリスクが高まります。がれきの片付けを行う時は、N95 マスクまたはマスクを装着しましょう。
- 埃から目を守るためにゴーグルまたはメガネを装着しましょう。
- がれきの片付け時にけがをして、そこに土に存在する破傷風菌が入る危険性があります。外へ行く場合は長袖を着て、軍手をしましょう。
- トイレは、排泄後水を流すことはできません。また、使用済みの紙を便器内にいれると汚水槽がすぐに使えなくなります。そのため、仮設トイレの清掃は、回数を増やし、少ない水で便器周辺の汚れを落とし、新聞紙で水をふきあげることが必要です。また、人がよく触れる場所は特に念入りに水を使わない洗剤で拭き上げることが必要となります。

最後に、私は仮設トイレについて提案があります。停電の中、外に設置されている和式の仮設トイレは高齢者にとって、非常に辛いものです。災害用のトイレは、広く洋式であること、排泄物や使用済みの紙がバクテリアなどで分解できるシステムであること、ソーラー式の電気が備わっているなど見直しが必要と思いました。



災害支援ナースの活動報告

介護老人保健施設 悠々亭
ケアサービス部 部長 中村恵里子

日本看護協会より災害支援ナースとして4月7日から10日までの間、宮城県石巻市の避難所で活動を行ってきました。事前にはもちろん、テレビのニュースや新聞報道など、自分の知り得る情報は把握していたつもりでしたが、実際に行って見た現地は「悲惨だ、どうなるんだろう」「何とも言えない埃(ほこり)と臭い」であり、想像できない光景でした。そして、体育館で過ごす600人を超える被災者の方々と過ごすことになりました。

海からほど近い場所であったことで、ほとんどの方が家

を流され、また、家族をさらわれた方もおられました。しかし、環境が激変した場所で不満を強く訴えることなく、班ごとに決められた清掃業務や支援物資の仕分けなどを協力しながら、日々の生活を行っていました。災害支援ナースとしての私の役割は避難場所で健康管理面の課題を抱えている人を発見し、医療チームとの連携による活動を行うことでした。今後、この市がどのように復興していくかを見届けながら、私なりの支援を今後も継続してきたいと思っています。

八尾はあとふる病院 看護部 課長 丸毛知子

4月23日、デコボコの道路を走るバスに揺られ、テレビで見ていた惨状の気仙沼市に着き、体育館で生活する被災者を目の当たりにした瞬間の私の強張った表情は、到底、人をケアする看護師のものではなかったと思います。



そんな初日から3日間の支援を終えた日の早朝、暗くて寒い体育館の隅で荷造りをしていると、Kさんが来てくれました。「看護婦さんありがとね。これバスの中で食べてね。気をつけて帰ってね。風邪ひかないようにね。」とチョコレートを手渡してくれました。もう返す言葉がなくて、握手をすることしかできなくて。でも、手を握った瞬間から、申し訳ない気持ちでいっぱいになり涙が溢れました。私が看護師としてKさんにできたことは、症状の相談にのり、血圧を測り、血圧ノートを作っただけだったからです。

気仙沼で過ごした3日間とKさんの出会いは、「どんな時でも、相手を気遣える人になりたい。」という思いを強くしてくれました。これからも被災地のこと、そこで暮らす人々のことを忘れずに想い続け、今できることを精一杯していきたいと思っています。



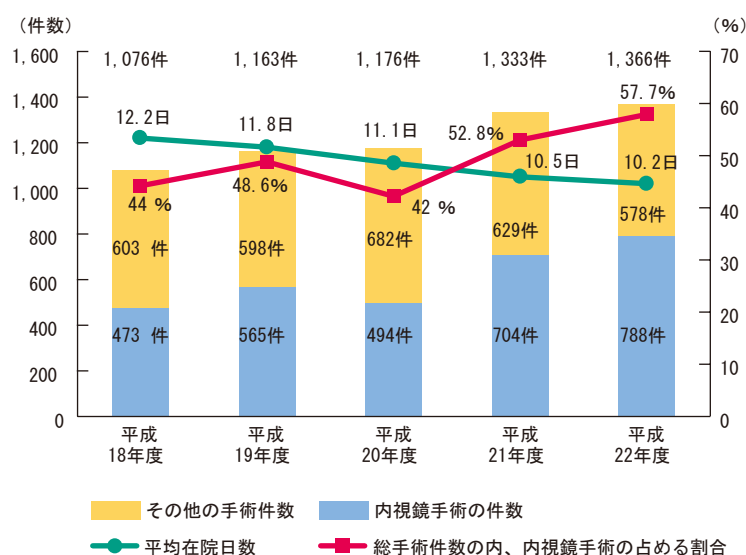
平成22年度 島田病院手術実績の ご報告

島田病院では、低侵襲で患者さまへの身体的な負担が少ない内視鏡を使った手術をおこなっています。この専門的な手術によって、入院期間が短くなり、早期にスポーツや社会への復帰が可能になります。

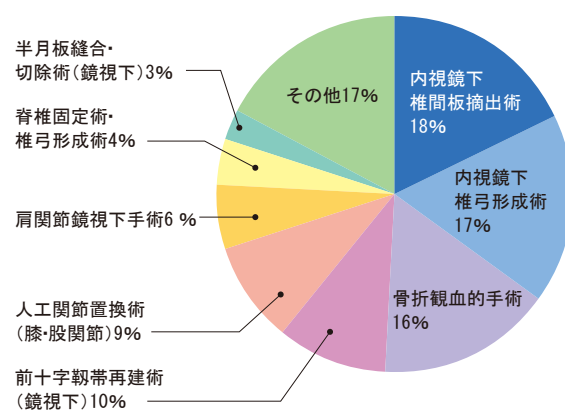
平成22年度の手術件数は 1,366 件 となり、前年と比べ 33 件増えました。そのうち内視鏡手術が総手術件数の半数以上（約57.7%）を占めるようになりました。また平均在院日数も 10.2 日と、年々短くなってきています。（図-1）

ヘルニアの手術（内視鏡下椎間板摘出術）では、20代 から70代と幅広く、特に30代、40代 に多く見られます。スポーツ選手などに多い前十字靱帯損傷の手術（前十字靱帯再建術（鏡視下））、肩の反復性脱臼の手術（肩関節鏡視下手術）は10代、20代の若い方に多く見られます。中高年齢層からご高齢の方に多いものは、腰部脊柱管狭窄症の手術（内視鏡下椎弓形成術）、人工膝関節や人工股関節の手術、また肩の腱板損傷の手術（肩関節鏡視下手術）などがあります。（図-2）（図-3）

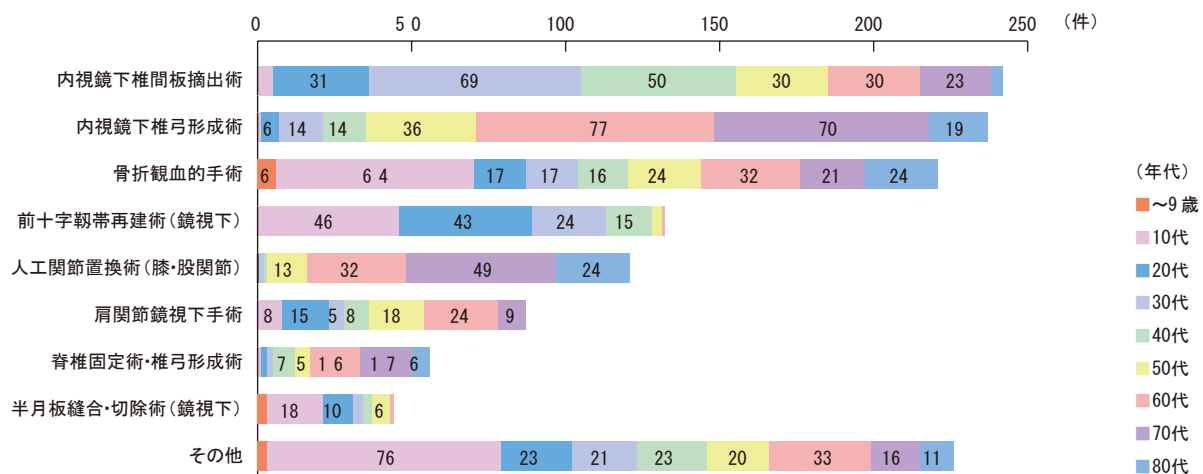
年度ごとの手術件数の推移（図-1）



平成22年度 手術件数の内訳（図-2）



平成22年度 年代別手術件数の内訳（図-3）



※年代別件数表示は20件以上

島田病院副院長に就任して

副院長 整形外科 勝田 紘史

このたび、7月1日付をもちまして副院長を拝命いたしました。

私は、学生時代にバスケットボールやモーグルスキーに明け暮れた時期がありました。医学生は学生とはいえ、実習や試験が多く、特に冬の時期が忙しいため、モーグルスキーに費やすことのできる時間があまりありませんでした。医師国家試験受験後、私は念願であったスキーに専念する時間を作ることにしました。一年間、海外を含め『モーグルスキー武者修行の旅』に出たのです。いろんな経験をし、いろんなことを感じ、いろんなことを考えました。

言葉が通じなくても伝えることができること。

言葉が通じないと思いを伝えられないこともあること。
大自然の中では、いかに自分は、“ちっぽけ”な存在であるかということ。

冬山で、パートナーに自分の手綱を持ってもらい自分の命を預けることで「死ぬということ」「生きるということ」を真剣に考え込める時間を持てたこと。

トップアスリートの想いとパフォーマンスの高さ。

若い世代が真剣に競技に取り組む反面、コーチや監督が体に対する間違った知識を持っている場合があること。

私はその経験を通して、なんらかの形でトップアスリートのサポートをし、そして若い世代が正しい体の使い方を順序良く身につけるアドバイスができる立場になろうとスポーツ整形外科医を目指しました。そして、運動器※を満足に使えるようになることは、その人がその人らしく生きることができなくなることも知りました。

地域の方々を中心に、運動器に悩みを持ち、真剣に治りたい機能を向上させたいと考える方々に、これまでに得た知識や想いと共に、裏付けのある確かな技術を持って貢献できるよう努力します。また、スタッフ一同、チームでリハビリテーションを軸としたより良い医療の提供を目指したいと思っております。

これから、よろしくお願いいたします。

※運動器とは
身体活動を担う筋・骨格・神経系の総称であり、筋肉、腱、靱帯、骨、関節、神経、脈管系などの身体運動に関わるいろいろな組織・器官の機能的連合のこと



●プロフィール

経歴 平成14年川崎医科大学医学部卒
専門 外傷、関節外科、整形外科一般
専門医 日本整形外科学会 整形外科専門医
趣味 モーグルスキー、旅行
ひとこと 四肢骨折、外傷や関節症を中心に診療を行ってまいりました。
スポーツ整形外科全般に取り組んでいきます。

2011年3月からの行事報告

3月10日	『広げよう地域の輪』～伝えたい あんなケア・こんなケア～	地域の医療機関が参加し、医療と介護の連携を深めました。
4月1日 ～6日	新入職者研修	38名の新入職者、中途入職者が参加し、はあとふるグループの職員として必要なことを学ぶ研修でした。
5月11日	八尾はあとふる病院 看護の日	毎年恒例で、地域の方々との交流を深める機会として開催しています。
5月14日	島田病院 看護の日	
5月15日	SCD友の会 総会	リハビリ課をはじめとしたスタッフが参加し、患者会と交流をしています。
6月30日	フォローアップ研修	一人一人の職員が、グループの使命、理念等を理解するための研修です。
7月9日	羽曳野エリア 新任目標設定研修	新任の役職者が目標管理制度を理解するための研修です。
7月11日	八尾エリア 新任目標設定研修	
8月15日	考課事例検討会	職種間で考課基準のすりあわせを行う研修です。

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを

知識
Cool Head 心 Warm Heart
Beautiful Hands 技術
で支援します

- 1.「確かな知識と技術」を追求します
- 2.「心に届く」を追求します
- 3.「安全」を追求します
- 4.「信頼でつながるチーム」を追求します



Cafe Infection Control

感染管理認定看護師がお届けする感染対策情報

医療法人永広会 島田病院
感染管理認定看護師
看護部 看護課 主任 山本典孝

QR コードで
簡単アクセス



2011年度APICへ[※]行ってきました!!

今年初めてAPICへ参加しました。会期は、2011年6月27日～29日の日程で、メリーランド州ボルチモア市で開催されました。英語がしゃべれない私にとって少し緊張気味で参加しました。その日に行われた各講演及びポスターセッションの要約とポイントについて、日本人講師の先生方に解説していただくサマリーセッションに事前に申し込んでおり、毎日レビューすることが出来ました。また、CDC ガイドラインを作成している米国の先生と日本人参加者（ICN）とのショートミーティングでは今年3月に発生した東北地方太平洋沖地震後の避難所における感染対策について意見交換を行いました。日本ならではの文化による米国とは異なる感染対策について興味を示されていました。短い時間でしたが日本から世界へ情報を発信出来たのではないかと感想をもっています。

また、その日の夜開催された交流会では、現地の先生方と直接話が出来、充実した時間を過ごしました。学会終了翌日の6月30日はボルチモア市内の病院(University of Maryland Medical Center)見学へも参加しました。最新の設備や敷地のスケールの大きさにはびっくりしましたが、実際に日々行う

感染管理については日本での実践とそれほど差を感じませんでした。

最後に3日間の学会から楽しく学ぶことが出来ました。そして何より、APICより新しい感染管理の知見を修得する事も重要ですが、異文化に触れ本当に心と体がリフレッシュすることが出来ました。

※APIC (Association for Professionals in Infection Control and Epidemiology) は病院感染に関するガイドラインをいくつも公表している米国の感染管理・疫学専門家の協会です。



2011年7月4日撮影



はあとふるグループ

- 医療法人(財団)永広会
島田病院 TEL. 072-953-1001
Eudynamics はびきのヴィゴラス TEL. 072-953-1007
介護老人保健施設 悠々亭 TEL. 072-953-1002
在宅介護支援センター 悠々亭 TEL. 072-953-1003
介護サービスセンター ゆうゆう亭 TEL. 072-953-5514
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1
- ヘルパーステーション 悠々亭 TEL. 072-953-1062
訪問看護ステーション ハートパークはびきの TEL. 072-953-1004
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7
- 八尾はあとふる病院 TEL. 072-999-0725
〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター はあとふる TEL. 072-999-8126
〒581-0815 大阪府八尾市宮町2-10-22
- 社会福祉法人 はあとふる
高齢者生活福祉センター ゆうゆうハウス TEL. 072-931-1616
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10